

くの成書がある。関連した技術として、化合物の化学構造を変える紫外線の利用などがある。

- GC 法 質量分析法 (MS) の利用
残留分析実験室ではあまり使われていないが、特殊な装置をおく研究室では、広く用いられている。
- 分取 GC による予備分取 含まれる残留農薬の性質の差によって、分取される化合物の同定にも役立つ。

F. 分析結果の報告

報告の問題は、分析を依頼した機関の要望に左右されるところが大きい。報告の書き方に厳

しい規定を設けることは難しく、必要とする精度すらきめられない。仕事を始める前に分析者と依頼者が採用した分析法の妥当性と分析結果から導かれる判断について、十分に正しく認識するように勧める。報告は、常に結果を得るために用いた方法を述べておく必要がある。

Good Analytical Practice in Pesticide Residue Analysis.

G. M. Telling

Proc. Analyt. Div. Chem. Soc.

Jan. 38, 1979.

植 調 協 会 だ よ り

◎ 会議開催日程のお知らせ

- 第39回役員会
日時：昭和55年5月20日(火)、14～17時
場所：東天紅（東京都台東区池之端1-4-33, TEL 828-5111）

◎ 人事異動

昭和55年3月31日付

依願退職 事務局技術部第一課技師 大輪和子

昭和55年4月1日付

任	事務局技術部第一課技師	石岡 純子
任	事務局技術部第二課技師	泉沢由起子
任	研究所技師	横山 昌雄
任	研究所技師	奥田 浩喜

編 集 後 記

雨に打たれて散りゆく桜の花びらには、何となく哀れに思うことがあるが、耕地より引き抜かれ、路傍に捨てられた雑草には、人間の心は通じないのか、誰しも感情の湧くことはないようだ。農村では、雑草と病害虫のたたかいに明け暮れてきたせいか、とくに作物栽培にとって悪影響を及ぼす雑草に対しては、よい感情を持てる筈がない。しかし、これらの雑草を活用できるならば、省エネ時代の片棒になってくれるに違いない。一口に、雑草として眼のかたきにするよりは、荒野の雑草を活用することに眼

を向ける必要性があるのではないだろうか。

財団法人 日本植物調節剤研究協会
東京都港区虎ノ門一丁目17番1号
電話 東京(03)502-4188(代)

昭和55年4月発行

植調第14巻第1号

¥250(送料140)

編集人 日本植物調節剤研究協会専務理事 吉沢長人
発行人 植調編集印刷事務所 広田伸七

東京都港区愛宕1-2-2 全国農村教育協会内
発行所 植調編集印刷事務所
電話 東京(03)436-3388番